Volume 115（2017 年 1 月）

謹賀新年

JRRN Newsletter

日本河川・流域再生ネットワーク http://www.a-rr.net/jp/ https://www.facebook.com/JapanRRN

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目 次 Pages

- JRRN 事務局からのお知らせ…… 1
- 会員寄稿記事…… 5
- JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ……8
- 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介……9

JRRN 事務局からのお知らせ（1） *JRRN Activity Report*

年始のご挨拶

2017 年、新年明けましておめでとうございます。

皆様には日頃より JRRN のネットワークの活動にご協力いただきまして大変ありがとうございます。

昨年は多くの会員の皆様に全国各地で河川再生に取り組んで頂きました。会員の皆様からお寄せいただく情報はどれも有意義で、皆様の生き生きとした取り組みの様子をお伝えいただきました。これはこれから取り組もうとしている方々にとっては大切な道しるべになると思います。

昨年は JRRN が設立 10 周年目を迎え、節目の年となりました。会員数も 750 人を超えるまでになり、大いに活動も広がってきています。「小さな自然再生」事例集の取りまとめ以来それを実践する取り組みも活発になり、現地研修会も千葉県・神崎川（12 月 8 日）で第 5 回目となりました。

この取り組みから非常に大切なことを学んでいます。それは日本に同じ川は一本もないということです。一口に大きな河川は約 2 万本、小さな川まで入れると約 4 万本の河川があると言われています。もちろん日本だからこその共通の特徴はあります。日本列島を構成する急峻な山岳地から流れ下り、扇状地、平野、海へと達する世界的には急流河川と位置づけられる川です。しかしこの共通項が意味を持たないのは、日本の河川の全てが人々の生活とのかかわりの中で存在していることです。日本には誰にも知られず、原生林を流れる川はありません。4 万本の河川一つ一つに地域との繋がりがあり、河川の存在意義があり、多くの恵みと共に命を失うほどの脅威も受けて来ました。このことこそが「河川文化」なのです。10 河川あれば 10 通り、100 河川あれば 100 通り、4 万本あれば 4 万通りの河川文化があるのです。

ですから私たちが皆さんと一緒に取り組んでいる「小さな自然再生」現地研修会は、ひとつの事例紹介に過ぎません。全く同じことをやっても意味がないのです。一つ一つそれぞれの河川に合った方法に適合させること、そのことが不可欠です。その取り組みに子供たちを参加させて、失敗と創意工夫を重ねていく道程を体験させることが、次の世代を育てることにもなるのです。大いに失敗し何度でも取り組んでください。それぞれの新しい河川文化を育んでください。このようにたくさんの取り組み情報が集まってくると、ついつい類型化し普遍化して、皆さんの取り組みをそれに合わせようとしてしまいがちですが、そのような必要はないのです。日本で唯一を守り続けることが河川文化の継承なのです。日本中で金太郎飴のような河川を目標にしないことが、JRRN の情報ネットワークの役割でもあると思うのです。

さて今年 8 月には、JRRN を含むアジア地域のネットワークであります ARRN の事務局を韓国 KRRN から引き継ぎます。2 年間の役割ですが、さらに発展させて次の国の RRN へバトンタッチしなければなりません。皆様のご協力をお願いいたします。

このようにして JRRN の活動も幅広い分野での取り組みを展開していきたいと思います。大いにネットワークの活動を盛んにしていきます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

JRRN 代表理事　土屋信行

JRRN 事務局からのお知らせ（2）　JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト－　『第 5 回「小さな自然再生」現地研修会 in 千葉県白井市・神崎川（12 月 8 日）』開催報告

第 5 回「小さな自然再生」現地研修会を 2016 年 12 月 8 日（木）に千葉県白井市・神崎川にて開催致しました。

神崎川上流部でメダカ等の身近な生物の保全活動に取組む「神崎川を守るしろい八幡溜の会」、地元自治体の白井市との共催で行われた現地研修会には、活動にかかわる方をはじめとした地元関係者、川づくりに携わる実務者や研究者の方々、また「小さな自然再生」研究会メンバーなど 60 名近くが参加しました。

座学、現地視察とワークショップから成る一日がかりのプログラムを通して、「小さな自然再生」の考え方、神崎川上流部での自然環境の保全・再生に向けた取組み、河川管理者の取組みを学び、神崎川上流部の利活用について参加者全員で考えました。

【日時】2016 年 12 月 8 日（木）
10：00～17：00
【場所】千葉県白井市（座学：千葉ニュータウン・プラザ西白井 1 番街団地集会所／現地：神崎川上流部）
【主催】「小さな自然再生」研究会
【共催】神崎川を守るしろい八幡溜の会、白井市、ＪＲＲＮ
【プログラム】
●「小さな自然再生」に関する座学研修
・小さな自然再生の紹介と福岡市室見川での取組み（伊豫岡宏樹：福岡大学工学部社会デザイン工学科）
・神崎川上流部での取組み（神崎川を守るしろい八幡溜の会、長谷川雅美：東邦大学理学部生物学科）
・印旛沼流域水循環健全化の取組み（千葉県県土整備部河川環境課）
・水の循環からみた都市緑地での取組み（菊池佐智子：公益財団法人都市緑化機構）
・上西郷川における市民主体の川づくりと小さな自然再生（林博徳：九州大学大学院工学研究院）
●神崎川上流部現地研修
八幡溜、木戸前調節池、神崎川等
●ワークショップ（ファシリテーター： 西廣淳：東邦大学理学部生命圏環境科学科）
「西白井・神崎川上流部を地域資源として効果的に活用するには？」

●座学研修

研修会の趣旨説明の後、伊豫岡先生（福岡大学）から、小さな自然再生と室見川での取り組みについて紹介がありました。小さな自然再生を進めていくための留意点、地域と行政との信頼関係の重要性などが、ご自身の体験を交えて丁寧に説明されました。

神崎川上流部での取り組みについては、「神崎川を守るしろい八幡溜の会」から、紙芝居風に地域の環境のお話がされた後、同会の活動を支えている長谷川先生（東邦大学）から、より広い北総地域の中での位置づけや取り組み経緯、具体的な内容について説明がありました。

その後、神崎川を含む印旛沼流域の水循環健全化の取り組みについて千葉県から、都市緑地での水循環に関する取り組みについて菊池さん（公益財団法人都市緑化機構）から、上西郷川における小さな自然再生の取り組みについて林先生（九州大学）から、それぞれ紹介がありました。

他の地域や全国の小さな自然再生の取り組みとのつながりにより、さまざまな立場の人が参加することで、地域の取り組みは、活動の位置づけがより明確になり、視野やアイデアも広がったことと思います。

小さな自然再生について説明する伊豫岡先生

神崎川での取り組みの説明をする長谷川先生

●現地研修

午後からは会場を出て、「神崎川を守るしろい八幡溜の会」の代表、寺園さんの案内で木戸前調節池、神崎川上流に位置する用悪水路、八幡溜の現地を回りました。

八幡溜には、増水時に用悪水路からの水が入り氾濫原のような環境ができることで、メダカなどの生き物が生息しています。現地では、増水時に水が流れる個所や残っている水たまりなどを確認しました。

また、白井市では治水上の機能を向上させるため、現在の土羽水路とは別に、暗渠化した水路を設置する事業を進めています。現地では、白井市の職員から、実際の工事現場を案内いただいたり、八幡溜の環境を保全するための配慮や工夫などについて説明をいただきました。

加えて、用悪水路沿いには、野馬除土手（のまよけどて）と呼ばれる全国的にも珍しい遺構があり、これについても白井市から説明を受けました。江戸時代には、周辺に“牧”と呼ばれる馬の放牧場があり、野馬除土手は、そこから馬が逃げ出さないように水路との高低差を利用して設置されたものだということです。

実際の現場を見ながら、関係者から環境保全の活動、下水道整備事業、歴史文化的遺構の説明を受け、意見を交わしたことで、参加者にもより具体的に課題や関係者の考え、解決に向けたポイントが共有されました。

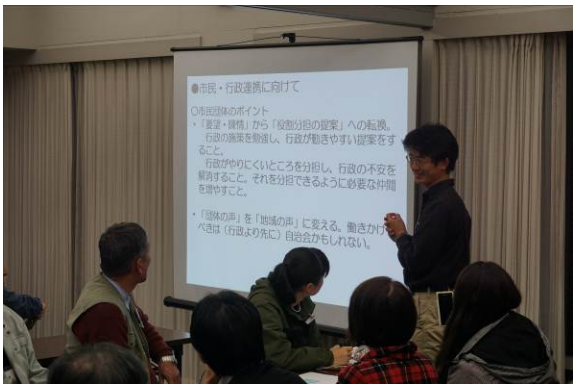
用悪水路での活動の説明風景

●ワークショップ

再び会場に場所を移し、現地を研究フィールドとされている西廣先生（東邦大学）の司会のもと、「西白井・神崎川上流部を地域資源として効果的に活用するには？」をテーマにワークショップを行いました。

技術的な課題、取り組みの前提を全体で共有した後、班に分かれて、目標像や推進体制について意見交換が行われました。

各班のまとめでは、“牧”への馬の放牧などユニークなものを含め、八幡留の湿地環境、野馬除土手など探り当てた地域資源をもとに、一般の方や子供にもの関心を持ってもらい地域の活動にしていくさまざまなアイデアが出されました。



西廣先生が進行するワークショップ

ワークショップでの発表の様子

●おわりに

今回の現地研修会は、上西郷川で開催された第 3 回「小さな自然再生」現地研究会に寺園さんが参加し関心をもっていただいたことがきっかけとなり実現したもので、一つ一つの企画が独立したものでなく、つながりをもっていることを私たちも再認識しました。

今回の現地研修会にあたり、全面的にご協力いただいた「神崎川を守るしろい八幡溜の会」、白井市の皆様に感謝を申し上げます。また、ファシリテーターを務めていただいた西廣先生の入念な準備と当日の円滑な司会進行のおかげで、密度の高い有意義な現地研修会となりました。現地研修会の詳細については、後日開催報告書を公開致します。

なお、本活動は（公財）河川財団 の河川基金の助成を受けて実施しています。

（JRRN 事務局・内藤 太輔）

JRRN 事務局からのお知らせ（3）　*JRRN Activity Report*

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)活動紹介－「2017 年の ARRN 活動に向けた準備会議@中国・北京」参加報告

JRRN ニューズレターvol.112（2016 年 10 月号）内で報告させて頂きました通り、2016 年 8 月に韓国・仁川市にて開催された「第 11 回アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)運営会議」において、ARRN の 2017 年の活動に関し以下の二つが決定しました。

① ARRN 事務局を 2017 年夏より JRRN が再び担う。
② 次回 ARRN 年次行事（第 14 回 ARRN 国際フォーラム、第 12 回 ARRN 運営会議）を、2017 年 8 月にマレーシアで開催される「第 37 回・国際水圏環境工学会世界会議（IAHR 2017)」に合わせて開催する方向で準備を進める。

上記決定を受け、2017 年夏以降の ARRN 諸活動の幹事を JRRN 事務局が再び務めることから、JRRN 代表理事を含む 2 名が 2016 年 11 月 29 日（火）に中国・北京にある「中国水利水電科学研究院(IWHR)」を訪問し、ARRN の中国窓口である CRRN 事務局及び国際水圏環境工学会（IAHR）北京事務局と、ARRN の 2017 年行事に向けた準備会議に参加して参りました。

準備会議及び参加者メンバー

なお、IAHR は 1935 年に設立された水工学分野で最も歴史と権威のある国際学会で、事務局はスペイン・マドリッドの Spain Water と中国・北京にある中国水利水電科学研究院(IWHR)が分担し、北京事務局では主に IAHR 主催行事や各種技術委員会の企画運営、ホームページ管理や一部のジャーナル編集＆発行、及び会員管理等を分掌しています。

■国際水圏環境工学会（IAHR）ホームページ：
https://www.iahr.org/
■中国水利水電科学研究院(IWHR) ホームページ：
http://www.iwhr.com/IWHR-English/

本準備会議には、IAHR 副会長、IAHR 北京事務局長、及び CRRN 事務局メンバーらが参加し、2017 年の ARRN 国際フォーラムを IAHR2017 の分科会（Special Session）として開催することを正式決定するとともに、本行事を通じてアジアの河川再生の知見を共有し、また多くのアジアの関係者に ARRN 活動に参加頂くための IAHR と ARRN の連携のあり方や今後の準備内容等について協議を行いました。

現在、IAHR 北京事務局及び IAHR2017 マレーシア現地事務局の協力を得ながら、「第 14 回 ARRN 国際フォーラム」の企画調整を現 ARRN 事務局（2016 年夏まで韓国 KRRN が担当）と共同で進めております。2017 年 8 月の年次行事概要が定まりましたら、改めて皆様にご紹介させて頂きます。

（JRRN 事務局・和田彰）

37th IAHR World Congress（IAHR 世界会議）
(Kuala Lumpur, Malaysia, 13-18 August, 2017)
https://www.iahr.org/worldcongress2017

1 月

鬼怒川越水点(若宮戸地区)右岸より

あの日のあの川　リレー日記　～第 24 話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです．リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます．

第 24 話主人公　石川弘之

（筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（□川ガール・■川系男子）

（出身地を流れる川：千葉県都川水系坂月川）

「バイクと見てきた水害」

いつのこと？：　大学～大学院

どこの川？：　鬼怒川

私はバイクが好きだ。暇があれば目的地も決めずに走り出す。千葉にいた頃は花見川河口の美浜大橋がお気に入りで，走り回った後に立ち寄ることが多かった。その橋は目の前に東京湾が広がっていて、大型船に乗っているような気分になれるから好きだった。筑波大に進学してから美浜大橋のように立ち寄れる場所を探していた。近くに筑波山はあるのに何か足りない。きっと水辺が好きだったのだろうと思って普段行かない道路を進んでみた。大きな川がある、お城のような物も見えるさらに進むとまた大きな川がある。良い場所を見つけた、きっとここも定番の場所になるのかななんて考えて楽しくなったのを覚えている。それから何度か通った 9 月、新しいお気に入りの場所が常総市と知ることになった。

2015 年 9 月 10 日、前日から携帯に鳴り響いていた豪雨警報を見ても雨は止んでいたし特別なことだとは思っていなかった。河川を専門とする研究室として様子を見ておくべきという先輩の呼びかけで集まった数名で大学周辺の川を見て回った。桜川横の防災航空隊基地からヘリコプターが忙しそうに飛び立っていって、た

だの大雨じゃないかもしれないと雰囲気の違いを感じ始めた。ラジオで情報を聞きながら移動していると、越水や決壊不穏な言葉が聞こえて来るようになった。事態の深刻さに気づいたのはこのときだった。どうやら常総市という場所が大変なことになっていると聞いて鬼怒川方面へ向かった。いつも通っていた橋の前で規制線により通行止め、歩いて進むと知らない光景が飛び込んで来た。茶色い水に浸かって道も田んぼが見えない、ヘリコプターがたくさん飛んでいる。いつもと変わらないのは豊田城だけだった。

2015 年 9 月 10 日長嶺橋付近より

翌日の 11 日に研究室に常総市の水害調査チームが設立された。初日のこの日は足で広範囲の情報を収集するため乗り物を総動員することになった。私はバイク班として浸水範囲や浸水深さを調べてまわった。知っている場所を走っている感覚はなかった。記録を取っては移動して、バイクも足も泥だらけにして初日の調査が終わった。被災地に入る時は作業着に大学の腕章を着け、無駄な雑談も余計な笑顔も見せないよう淡々と調査することを心がけていたが、聞き込み調査では被災者への配慮が足りず、怒鳴られることもあった。いくら調査とはいえ被災したわけでもない学生が災害現場をうろついていいのだろうかと悩まされた。聞き込み調査で人手が足りないと話してくれた御宅へボランティアに行った。水に浸かった米の酸っぱい匂いが印象的で、これが水害の匂いだと聞かされた。

災害からひと月が過ぎると大学の調査も終了して常総市へは行かなくなった。お気に入りだった場所も遊びにいくのは気が引けてしまって、災害から一度も行っていない。今回、この日記を機会に一年ぶりにバイクで訪れた。常総市へ向かう道、災害発生から増えたダンプはまだ列になって走っていた。元通りになった場所も、そうでないところもあって、一年経ってもまだ復興は続いていた。2016 年には熊本の震災などもあり忘れられた復興としての苦労があるとメディアで取り上げられている。あのときから忘れたこともなく、復興がまだ続いていることは知っていたつもりだったが、こうして現地を訪れてみると知っていたはずの復興の現場を見て驚いてしまった。

楽しい思い出ばかりの場所ではなかったけど、卒業後につくばに帰って来たときにまた来たくなるお気に入りの場所だ。被災地の一日も早い復興を願っています。

（次は藤原誠士さんにバトンを託します）

JRRN 会員寄稿（2）　*JRRN Member Contribution*

水辺からのメッセージ *No.92*

岡村幸二（JRRN 会員）

一歩一景の庭：

箱庭を眺めるように紫雲山の山頂から眺めたい

撮影：2016 年 11 月（香川県高松市・栗林公園）

◆起伏に富んだ地形で山や谷を表現

広い庭園内には個性豊かな７つの池と 14 の橋が配置されています。標高 200m の紫雲山を背景に複数の池を俯瞰して眺められる飛来峰や芙蓉峰に立つと、公園全体の魅力がいっそう広がります。

◆庭園の魅力は千本の手入れ松

公園名に「栗林」と付くものの、完成当初から園内の樹木はマツを主要としています。名の由来となったクリの林は、最初は北門付近に存在していましたが、途中で伐採されたそうです。

JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ（2016 年 12 月末まで提供分） *Information from member*

【JRRN 会員からの提供情報】

水辺からはじまる 生態系ネットワーク全国フォーラム（1/13 開催）

河川を基軸とする生態系ネットワークの形成をテーマとする全国フォーラムのご案内です。

■日時：2017 年 1 月 13 日（金）14：00～17：00

■場所：東京大学伊藤国際学術研究センター（東京都文京区）

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2646.html

【JRRN 会員からの提供情報】

巡回企画展:雨といきもの展 in 砂川（1/14～開催）

水の巡回展ネットワークより、北海道・砂川市で開催される巡回展のご案内です。

■日時：2017 年 1 月 14 日（土）～2 月 12 日（日）

■場所：砂川遊水地管理棟（北海道砂川市）

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2649.html

【JRRN 会員からの提供情報】

石井樋 400 年祭シンポジウム（1/15 開催）

古賀河川図書館の古賀館長より石井樋 400 年祭シンポジウム『成富兵庫茂安から現在、そして未来へ』のご案内です。

■日時：2017 年 1 月 15 日（日）13:00～16:30

■場所：佐賀市文化会館イベントホール（佐賀県佐賀市）

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2637.html

【JRRN 会員からの提供情報】

三河川の農業水利システムの展開（1/28 開催）

古賀河川図書館より筑後川・矢部川・嘉瀬川流域史研究会　第４回研究発表「三河川の農業水利システムの展開」のご案内です。

■日時：2017 年 1 月 28 日（土）13:00～16:50

■場所：筑後川防災施設「くるめウス」（福岡県久留米市）

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2642.html

【海外からの提供情報】

「RRC（英国河川再生センター）最新会報」ご紹介

RRC（英国河川再生センター）の最新会報（2016 年 11 月号）が RRC 事務局より届きました。

本号では、英国河川賞応募開始や来年 4 月の RRC 総会案内、また RRC による河川再生事業へのサポート案内や現地視察研修報告等が掲載されています。

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2634.html

【海外からの提供情報】

「ECRR（欧州河川再生センター）最新ニュースレター」ご紹介

ECRR（欧州河川再生センター）の最新会報（2016 年 10 月号）が事務局より届きました。

本号では、フィンランドとフランスの河川再生センター紹介、渇水管理に関わる指針等が紹介されています。

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2607.html

会議・イベント案内（2017 年 1 月以降）　*Event Information*

（国内の河川・流域再生に関する主なイベント）　※前頁でご案内した行事も一部掲載しています。

■"いい川"づくり研修会 in 新潟

○日時：2017 年 1 月 27 日（金）　10:00-17:00

○主催：NPO 法人 全国水環境交流会

○場所： 新潟県庁　西回廊講堂（新潟県新潟市）

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2654.html

■石井樋 400 年祭シンポジウム

○日時：2017 年 1 月 15 日（日）13:00～16:30

○主催：NPO 法人嘉瀬川交流軸

○場所： 佐賀市文化会館イベントホール（佐賀県佐賀市）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2507.html

■ダム下流の土砂・河床地形管理に関するセミナー

○日時：2017 年 1 月 26 日（木）　14:30-17:30

○主催：水源地生態研究会

○場所: TKP 新大阪カンファレンスセンター（大阪府大阪市）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2518.html

■第十二回「外来魚情報交換会」

○日時：2017 年 1 月 28 日（土）～29 日（日）

○主催：琵琶湖を戻す会

○場所： 草津市立まちづくりセンター（滋賀県草津市）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2493.html

■自然環境復元学会　第 17 回全国大会

○日時：2017 年 2 月 6 日（月）

○主催：自然環境復元学会

○場所： 日本大学理工学部駿河台（東京都千代田区）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2491.html

■"いい川"づくり研修会 in 山口

○日時：2017 年 2 月 9 日（木）　10:00-17:00

○主催：NPO 法人 全国水環境交流会

○場所： 山口県庁　1 階視聴覚室（山口県山口市）

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2654.html

■流域管理シンポジウム

○日時：2017 年 2 月 27 日（月）　13:00-17:15

○主催：関西広域連合

○場所： グランキューブ大阪（大阪府大阪市）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2530.html

■2017 年度河川技術シンポジウム

○日時：2017 年 6 月 15 日（木）～16 日（金）

○主催：土木学会水工委員会河川部会

○場所： 東京大学農学部　弥生講堂（東京都文京区）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2521.html

書籍等の紹介　*Publications*

■ できることからはじめよう　水辺の小さな自然再生事例集　（2015.3 発刊）

・監修：玉井信行　東京大学名誉教授 / JRRN 顧問

・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会

・デザイン：本間由佳　鶴川女子短期大学

・発行：　日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

・出版年月：2015 年 3 月

市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で協働制作しました。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう　市民による河川環境の評価～（2014.3 発刊）

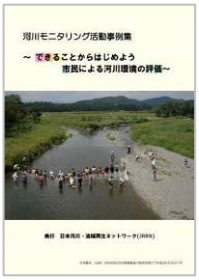
・監修：白川直樹　筑波大学准教授（JRRN 理事）

・執筆協力：　河川再生に携わる市民団体や行政機関

・編集：　JRRN 事務局、筑波大学白川（直）研究室

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

・出版年月：2014 年 3 月



市民が主体的に取組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

上記冊子の「印刷製本版」入手方法　※PDF 版はこちらから：　http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。（JRRN 会員限定）

JRRN 会員募集中　*JRRN membership*

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

(1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。

(2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。

(3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。

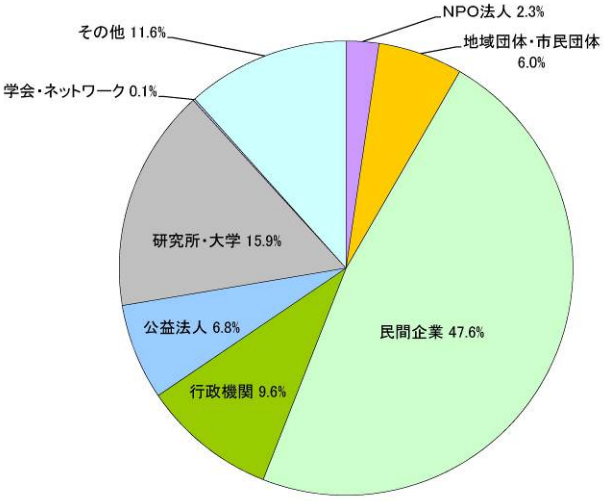
(4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。

(5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧下さい。

http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html



2016 年 12 月 31 日時点の個人会員の所属構成

（個人会員数：751 名、団体会員数：60 団体）

※12 月の新規入会数：　個人会員 0, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員（一般）
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール（週1回）の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter（毎月）及び年次報告書（年1回）等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュール（ARRN Newsletter等）の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：　http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)　事務局

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号　新川中央ビル 7 階　（公財）リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862　Fax:03-3523-0640　E-mail: info@a-rr.net

URL: http://www.a-rr.net/jp/　Facebook: https://www.facebook.com/JapanRRN

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

公益財団法人 リバーフロント研究所　CTI 株式会社建設技術研究所 国土文化研究所